

昭										年	月	日	略	歴	摘要									
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19															
12	12	10	5	5	4	3	3	2	1															
30	20	1	24	18	3	20	12	28	26															
<p>南方派遣才二方面軍配属要員として哈爾濱才十二野戦航空廠に於て編成 宮崎中尉以下一六名先発として空路奉天出發 「ミンダナオ」島「ダバオ」才二方面軍司令部着 才七飛行師団配属宮崎航空写真班と称す「アンボン」島「リアン」着 作業基地を「セレベス」島「マカッサル」に移す 残留人員奉天発 「マニラ」上陸遂次「マカッサル」集結 黒川大尉を隊長として関東軍才一航空写真隊編成完結 南方総軍直轄となる。 黒川隊長以下主力「北サンフェルナン」より乗船西貢に向い転進せるも昭和二〇年 一月三日台湾高雄沖にて敵機の攻撃を受け海没</p>																								

関東軍才一航空写真隊 略歴
 (才九三一六部隊)

	20	20	20		20	20		20		20
	9	5	5		2	1		1		1
	2	20	9		8	30		8		7
	<p>藤村中尉以下三〇名「北サンフェルナンド」待機中敵進攻の為「バギオ」に到り オ一四方面軍司令官の指揮を受く 「クラーク」待機中の宮崎中尉以下二三名「バギオ」に到りオ一四方面軍の区署 を受く 「バギオ」空襲に際し宮崎中尉以下二三名戦死 新見准尉以下一四名緊急輸送のため「バギオ」出発三月一六日「ソラノ」オ四飛 行師団司令部着 オ四飛行師団司令部輸送隊を藤村中尉長となり編成「キャンガン」転進 藤村中尉長となりオ一四方面軍司令部輸送隊を編成し輸送に従奉す ルンソン島に於て終戦 終戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は「キャンガン」に於て武装解除された 後米軍収容所に入る。</p>									

昭										年	月	日	才三航空軍野戦病院略歴
21	21	21	21	20	20	20	20	20	20				
6	5	5	1	11	11	9	9	8	8				
12	29	21	5	28	24	9	初	29					
<p>馬米「シンガポール」才三航空軍司令部に於て編成完結 南部馬米「ジョホール」州「ボンテアン」に転進 該地瀨病院に於て病院を開設 爾後「アイエルパロイ」に転進病院を開設 「レンバン」島に上陸民安に於て開設 陸路到着 病院を開設民安病院と呼称す 真命才一九号に基き附近部隊内地帰還に伴い病院業務を閉鎖し衛生材料は 内地に還送 院長以下三五名を以て千鳥病院を継承 真命に依り病院業務を閉鎖</p>										略	歴		
										摘	要		

				21
				7
				1
			大竹港上陸 復員	
		歴代部隊長		
	初代	軍医少佐	木村 寛一	
	二代	軍医少佐	内野 閉	

1274

昭 19	自 20	至 20	年 月 日	略 歴	摘 要
6	2	6	20 20	台湾、台北にて臨時航空病院編成完結。	
8	9	9	20 20	台湾並びに南西諸島における天号航空作戦に参加。	
15	2	5	20 26	停戦。	
24	2	5	20 26	終戦。	
				台参復第三号により臨時航空病院復帰、同日復帰完結。	

第八飛行師団臨時航空病院
(誠第二一三三五部隊)

略
歴

1275

						昭	年 月 日	陸軍航空本部朝鮮監督班 略 略 歴
	20	20	20	20	19	19		
	8	8	8	7	8	8		
	31	15	10		1	1	略 歴	
部隊長 大佐 松友幸隆	武装解除。	停戦。	朝鮮軍司令部と共に太田に移駐。	各一部を平壤、安養、大邱、咸興に配置す。	陸軍航空本部朝鮮監督班と改称し朝鮮軍司令官の指揮下に入る。	平壤より京城に移駐。		
							摘要	

1277

											昭	
											17	
21	20											2
5	11	5	5	5	4	3	3	2	2	2	2	2
28	14	16	16	9	23	28	21	28	26	24	9	8
内地復員のため盤谷集結												
集結完了												
盤谷国立埠頭「ロップリー」「タックリー」を経て「ナコンナヨーク」												
爾後航空作戦資材の輸送並びに整備												
「バンコック」着												
緬甸泰國境通過												
蘭貢出発												
蘭貢着												
泰緬甸國境通過												
「バンコック」出発												
「バンコック」着												
「シンゴラ」出発												
「シンゴラ」に集結												
「バタニ」出発												

1001~2

					昭 21
				6	6
				19	17
				復員完結	浦賀上陸
		歴代隊長			盤谷出発
	二代	初代			
	大尉	大尉			
	稲着	菅野			
	奥次郎	市郎			

1280

														昭 17
21	5	12	12	12	12	12	12	8	8	5	5	4	2	2
	10	29	25	22	20	12	9	17	9	4	1	23	24	13
	仏印聖峯港 出発	西貢着	仏印国境 通過	秦馬米国境 通過	昭南出発	昭南上陸	「バレンバン」 出発	「バレンバン」 着	「ベラワン」 出発	「ベラワン」上陸、 同日「メダン」 着	昭南港 出発	「スンゲイ パタニ」 出発	「シンゴラ」 着	「コタバル」 出発

1282

											昭	年 月 日	陸 上 勤 務 才 七 〇 中 隊 略 歴
											16		
11	11	11	11	11	11	8	8	8	8	8	8		
26	25	23	20	13	11	27	25	22	18	1	略	歴	
南京出發 吳淞通過	南京着	吳淞通過	大連出發	關東州界通過	南方作戰運用のため吉林省敦化出發	吉林省敦化着	關東州界通過	大連港上陸	大阪港出發	内地において編成完結	摘要		

														昭
														16
18							17							16
7	7	6	6	2	2	10	10	5	5	4	1	12	12	12
4	2	30	20	5	2	28	26	8	6	16	8	17	7	4
三 江 省 富 錦 着	勃 利 出 発	一 部 五 福 濁 出 発	一 部 公 主 嶺 出 発、 東 安 省 勃 利 着	東 安 省 勃 利 着	一 部 五 福 濁 出 発	公 主 嶺 着	一 部 五 福 濁 出 発	龍 江 省 五 福 濁 出 発	大 連 出 発、 関 東 州 界 通 過	滿 州 帰 還 の た め 昭 南 出 発	泰 国 馬 来 国 境 通 過	泰 国 「 シ ン ゴ ラ 」 上 陸	仏 印 「 カ ム ラ ン 」 湾 着	海 南 島 出 発

1003~2

									昭 18		
				20					18		
		8	8	8	8	8	12	10	10		
		22	20	15	14	11	24	26	22		
		香坊にて武装解除	新果樹着	横道河子着	部隊は「ハルビン」集結のため行動開始	部隊は吉林省黒山頭に移駐のため勃利出發	同日東安省勃利着	佳木斯出發	一部龍江省五福瑯着	佳木斯着	富錦出發
隊長	中尉 橋本忠雄										

至自至自				昭				年	
17	17	17	17	16	16	16	16	日	
12	12	3	3	1	11	10	10		月
3	21	21	18	20	3	18	8		
航空資材の修補補給燃料弾薬の運搬集積に従事				高崎に於て編成完結				略	陸上勤務才七三中隊略歴
第一四野戦航空修理廠及び第一四野戦航空補給廠に夫々半部宛配属せられ				内地港湾出発					
加のため「ラバウル」に前進				仏印「ハイフホン」港上陸				摘要	
昭南に在りて昭南復興の命を受け建築の任を果す、次で「ニューギニヤ」戦参				「ハイフホン」周辺の警備に任じありしが大東亜戦役開始と共に「スンゲイハ					
此の間「タイピン」に於て弾薬輸送及俘虜収容所の警備				タテ」に前進し同地の鉄橋修繕に任ず					

	21	19
	5	4
	1	下旬
	内地復員	第一四野戦航空修補廠の「ポウランジャ」前進並に第一四野戦航空補給廠の「ウエツク」前進に伴い夫々行動を共にし依然航空資材の修補補給燃料弾薬の揚陸輸送等に服し航空廠の能力を遺憾なく発揮せしむ 「ポウランジャ」より「サルミ」に転進し停戦に至る

	昭						
	17	17	17	16	16	16	16
	4	4	1	12	11	11	10
	9	9	2	1	20	6	7
年月日	略						
略	<p>千葉県佐倉歩兵第一五七連隊に於て編成完結 東京港出発 払領印度支那に上陸 払領印度支那「カンボジャ」「コンボンクアン」に集結 主力泰國「ドンムアン」「ビヌスローク」「ワンマライコーン」「ラヘーン」等に展開作戦資材輸送集積飛行場補修同管備等に任ず 主力緬甸「ドンク」に前進 一個小隊を泰國に残置し緬甸国「トンク」「メイクテイラ」「マグウエ」「メイミヨウ」「ヘホ」「アンバン」「マンダレー」「シエウボ」等に展開し作戦資材輸送集積飛行場補修同管備泰國に残置したる一個小隊は五月海路緬甸に追及</p>						
歴							
摘要							

陸上勤務才八〇中隊
 (高才三〇三〇部隊)
 略歴

至 自										
	21	21	20	20	20		20	19		18
	5	5	11	8	6	4	3	12		1
	13									
隊長	<p>緬甸地区「トングー」「ピンマナ」「メイクテイラ」「ピユ」「ラウクサウク」 「ミンキャン」に於て飛行場の増設作業に従事「インバトル」作戦協力のため 一部を「コーリン」「カレワ」「タム」に派遣 飛行師団の緬甸撤収作戦に協力 主要展開地「メイクテイラ」「シエウエボ」「マニツ」「カラウ」主力は地上 軍到着交代時迄「メイクテイラ」防衛作戦に協力 緬甸を撤退し泰杼印地区に転進 一個小隊を泰杼「ウボン」に残置し主力は仏印に展開最終的防衛作戦準備 終戦業務処理 内地帰還のため待機 内地復員</p>									
大尉 渡 辺 喜三郎										

1290

	21	20	19	18
	1	12	9	4
	17	30	2	22
<p>中隊長 中尉 三代川 長 策</p>	<p>浦賀港上陸、復員</p>	<p>内地帰還のため「」出発</p>	<p>武装解除された後收容所に入る</p>	<p>終戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者（部隊）は所在の地点に於て</p>
			<p>第六飛行師団司令部に勤務中の人員は「ホドランジャ」より「サルミ」</p>	<p>転進途中前後に敵を受け通信不能に陥り我が方に大なる損害を受く</p>
			<p>南飛行場の設定に協力</p>	<p>直ちに「アレキンス」に至り独立工兵第八連隊長の指揮下に入り同地</p>
			<p>「ラバウル」を経て「ハンサ」に上陸</p>	<p>「バラオ」を経て「ハンサ」に上陸</p>
			<p>任す</p>	

昭												年	月	日	陸上勤務才八九中隊 略歴
16															
3	3	11	11	10	9	9	8	8	8	8	7				
17															
牡丹江省海浪着、同地駐屯	才八野戦航空補給廠長の指揮下に入らしめらるため奉天出發	奉天着、同地駐屯	大連出發、同日關東州界通過	才九野戦航空補給廠長の指揮下に入らしめらる	關東州界通過、同日大連着同地駐屯	大連關東軍野戦航空廠輸送業務援助のため輪樹屯出發	才九野戦航空補給廠輸送業務援助のため竜江省榆樹屯着、同地駐屯	關東州界通過	大連港上陸同日航空兵団司令官の隷下に入らしめらる	滿州移駐のため大阪港出發	大阪歩兵才三八連隊（中部才二三部隊）において編成完結				
												略	歴	摘	要

														昭
														17
														18
														19
														20
8	8	8	8	4	4	3	3	12	12	12	12	7	7	4
24	18	15	13 / 14	25	24	5	4	5	2	21	19	7	5	10
京城出発	京城着、同地警備勤務に従事	羅南出発	蘇連軍清津上陸に対する戦斗に参加	鮮満国境図們通過同日威鏡北道清津着同地駐屯	大陸鉄道隊長の指揮下に入らしめらるため海浪出発	牡丹江省海浪着、同地駐屯	千山出発	奉天省千山着、同地駐屯	海浪出発	海浪着、同地駐屯	富錦出発	三江省富錦着才二野戦建築隊長の指揮下に入らしめらる、同地駐屯	海浪出発	才八野戦航空補給隊長の指揮下に入らしめらる

007~2

		9	9	8
		29	28	26
	中尉	部隊長	仙崎港上陸、復員	釜山着、同地駐屯
	中西	万蔵		

1295

1,008

											昭	年	陸上勤務第九〇中隊 (満第四〇一九部隊)	
											16			月
11	11	11	11	8	8	8	8	8	8	7	7			
14	14	11	8	22	21	21	19	16	1	17	17	略	略	
敦化着	延吉出發	延吉着同地駐屯	奉天出發	奉天着同地駐屯	関東州境界通過	大連出發	大連港上陸	大阪港出發	編成完結	歩兵第三七連隊補充隊大阪に於て特編第二号下令	略			略
												摘要		

1296

							19				18	17	
12	12	12	12	12	12	10	10	6	6	1	1	12	12
28	27	22	20	9	7	27	24	20	19	19	15	2	2
滿蒙 国境 通過	承德 出發	承德 着	鉄嶺 出發	鉄嶺 着	鞍山 出發	鞍山 着	間島 出發	間島 着	綏中 出發	綏中 着	延吉 出發	延吉 着	敦化 出發

1297

1008~2

												20	20
9	8	8	5	4	4	3	3	2	2	2	2	2	12
2	23	15	6	11	11	6	4	28	28	8	8	8	20
<p>揚木林ノ軍収容所に入る</p> <p>四平において武装解除</p> <p>停戦に伴い戦闘行動停止</p> <p>第三航空軍司令官の隷下に入る</p> <p>敦化着</p> <p>間島出発</p> <p>間島着</p> <p>文官屯出発</p> <p>文官屯着</p> <p>鉄嶺出発</p> <p>鉄嶺着</p> <p>満蒙国境通過</p> <p>多倫出発</p> <p>多倫着</p>													

1298

昭											年 月 日	陸 上 勤 務 才 一 二 三 中 隊 略 歴
20	19	18	18	17	17	17	16	16	16	16		
8	3	11	5	7	2	1	12	1.1	10	9		
15	25	1	1	24	4	26	8	15	5	26	略 歴	摘 要
<p>臨時編成下令（濟第二六動員五号の別） 台湾台北市に於て編成完結 転進のため台北出發 比島「アバリー」到着 「ジャワ」転進のため比島「アバリー」港出發 「ジャワ」島到着 「バンドン」に移駐 「チモール」島に転進 「マニラ」に転進 「アンボン」に転進 「バンドン」に移駐</p>												

		22	22
		2	1
		2	19
	歴代隊長	宇品港上陸、復員	「バタビヤ」港出發（チバダック号）
	初代	大尉	
	二代	中尉	
		森忠主	
		古内勇治	

1301

							昭	年	月	日	特設陸上勤務才一中隊 (輝才一〇三七一部隊)	略	歴
							18						
12	6	5	4	4	4	4							
14	25	9	23	22	20	19	千葉気球連隊補充隊において編成完結 南方派遣のため屯営千葉出発 宇品着 宇品港出発 「スラブヤ」「セレベス」に寄港し補充兵器を受し昭南「バラオ」 を経由 「ラバウル」に上陸 「ラバウル」において中隊主力は第一四野戦航空修埋廠に一部第一四 野戦航空補給廠に夫々配属せられ熾烈なる敵空爆下に航空資材、燃料 弾薬の揚陸運搬に任ず 中隊は「ホルランジャ」に転世し第一四野戦航空修埋廠長の指揮下に 同隊の輸送、建設業務に任ず	略	歴	要			

			21	20	19
			5	5	4
			15	13	28
				2	下
			復員	浦賀港上陸	内地帰還のため「サルミ」出発
			中隊長		
			大尉		
			矢部竹蔵		(戦死)
					「ホルランジャ」より「サルミ」に転進し停戦に至る
					終戦に伴い戦闘行動を停止し爾後生存者(部隊)は「サルミ」に於て武装解除された後収容所に入る

昭										年	月	日	建 築 勤 務 才 三 一 中 隊 略 歴	(真才七八五〇部隊)	
19	19	19	19	16	16	16	16	16	16						
2	2	1	1	8	8	8	8	8	7						
14	6	17	10	21	20	12	6	4	20	略	歴	略	略	略	略
軍司令部宿舎建築 部隊主力は「ウエワク」に於て才四航空軍 搭乗員宿舎建築、市原隊は才四航空 「バラオ」上陸 オ一小隊(市原隊)「ホーランヂヤ」に上陸 下関港出発 南海作戦参加のため東寧出発 東寧地区全域に亘る建築作業並に国境警備に従事す 満州国牡丹江省東寧着 興東州国境通過 宇品港出発 興特演参加のため東部才七部隊出発 東部才七部隊に於て編成										略	歴	略	略	略	
										摘要					

	21	21		20	19	19	19
	6	6		9	7	4	3
	17	3		2	1	23	25
	<p>部隊主力は「ホーランディア」に向い転進 市原隊は西部「ニューギニア」「サルミ」に向い転進と開始 「サルミ」到着、才三六師団長の指揮下に入る。 ニューギニアに於て終戦 停戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点に於て武装解除された後 米軍収容所に入る 「サルミ」出発 名古屋港上陸、復員</p>						

							昭 16	年 月 日	略 歴	建 築 勤 務 才 四 二 中 隊 (満才三〇二八部隊)	略 歴
12	12		8	8	8	8	7				
12	10		19	15	11	7	15				
在新京小隊は新京吉林敦化公主嶺興城在「ハルビン」小隊は「ハルビ 新京着 東京城出發 一ヶ小隊 一ヶ小隊 本部 本 部 牡丹江省東京城着 大連上陸、同日才二航空軍の隷下に入る 神戸出發 屯営地出發 山梨県甲府市歩兵一四九連隊内において編成完結							略		歴		
							摘		要		

昭														
20						19			18					
7	6	6	6	6	6	6	12	7	4	2				
10	22	20	18	6	4		下旬	5	26	11				
大阪出発	大阪看、才六航空軍指揮下に入る	山口県仙崎港上陸	清津港出発	鮮満国境図們通過	内地移駐のため鉄嶺出発	事	四平鞍山撫順湯崗子北支古活蒙古多倫奉天各地にて兵舎及陣地構築	奉天省鉄嶺に移動	竜江省齊々哈爾に移動「チハル」地区新京興城にて兵舎建築工事従事	満州富錦に移動	吉林省公主嶺において飛行機掩体の試験工事従事	奉天省遼陽飛行場の兵舎建築工事従事	孫呉各地区の飛行場関係の建築工事従事	ン」孫家平房興城在「チチハル」小隊は「チチハル」「トルチヤ」

1012~2

	昭
	20
	8
	15
部隊長 大尉 秋山 勉 一	熊本、大阪、高松、加古川において仮建築工事に従事 停戦通信不能のため各展開地に於て夫々武装解除を受く

1308

										昭 16	年 月 日	略 歴	摘要	
11	11	11	11	11	11	8	8	8	8	7				
28	19	16	14	13	11	20	17	15	10	7	内地において編成完結	建築勤務才四三中隊 (司才三〇二九部隊)	略 歴	摘要
海南島三重着	上海出発	上海上陸	大連出発	関東州界通過	南方転用のため齊々哈爾出発	齊々哈爾着	関東州界通過	大連上陸	満州派遣のため神戸出発					

1013~2

												至自		昭
												18	18	18
5	5	9	8	4	3	2	2	1	12	12	11	10	9	9
12	9		4	17	10	16		2	28				1	
<p>「スラバヤ」上陸</p> <p>「マカツサル」出発</p> <p>「アンボン」島より一部「セレベス」島に転進</p> <p>主力「アンボン」島より主力「セレベス」島に転進</p> <p>「アンボン」上陸</p> <p>高雄出発</p> <p>高雄着</p> <p>「パラオ」島より「アンボン」島に転進</p> <p>「パラオ」着</p> <p>「ウエワク」出発</p> <p>「ニューギニア」島より「パラオ」島に転進</p> <p>「チモール」島より「パラオ」島に転進</p> <p>「ウエワク」上陸</p>												<p>「フロレス」島より一部「アンボン」島に、主力は「ハルマヘラ」島に転進</p>		

1311

自	至	昭			
20	20	21			
8	8	8	6	6	6
4	4	1	22	21	10
		15			
			「セレベス」島より「ジャワ」島に転進 「ジャワ」島「マラン」において停戦 「ジャワ」島より王力「リオ」群島「ガラン」島に移駐 「ジャワ」島「タンジョンブリオク」出発 大竹港上陸 召集解除		

至自										昭	年 月 日	建築勤務才四八中隊 (司才四〇一四部隊) 略 歴
										16		
8	8	8	8		8	8	8	8	8	7		
27	24	22	18		15	14	5	4	1	16	略	歴
<p> 大阪港出発 第二野戦建築隊編成に入る 丹波市出発 大阪着 天理教兵神教会内において教育訓練に従事 屯営出発 奈良県丹波市天理教兵神教会着 奈良市歩兵第一五三連隊において編成完結 動員下令 </p>												摘要
<p> 関東州大連港着 関東州界通過 満州三江省佳木斯着 関東軍第二飛行集団直轄となる </p>												

至自										
12	12	12	11	10	10	10	10	同	9	9
8	4	3	15	13	5	4	1	日	14	13
<p>佳木斯出發</p> <p>東安省界通過</p> <p>東安省東安着</p> <p>東安出發</p> <p>關東州界通過</p> <p>大連着 大連港出發</p> <p>仏印西貢上陸</p> <p>第二五軍の指揮下に入り第三飛行集團の直轄となる</p> <p>仏印西貢及び「ブーンベン」「シムレア」「コンボンクーナン」「タニ」</p> <p>「コンボントラッシュ」等にありて「あ」号作戦準備に従事</p> <p>南方軍戦闘序列に入り西貢港出發</p> <p>一ヶ小隊は昭一七、三、二九迄西貢に在りて飛行場「ダイヤモンドトラス」</p> <p>格納庫構築作業に従事</p> <p>馬來作戦に参加泰國南部那今に敵前上陸</p>										

										至	至自		
										17			
7	同	3		2	2	2	12	12		1212	12	1212	12
23	日	14		28	18	14	29	28		2723	23	228	11
<p>第五飛行師団の指揮下に入る</p> <p>昭南着 (西貢残留一ヶ小隊は四月八日着)</p> <p>転進のため「クルアン」出發 (一部兵力は三月二〇日)</p> <p>「カハン」飛行場諸設備構築作業に従事</p> <p>馬來「クルアン」着</p> <p>馬來国境通過 第一五航空地区司令官の指揮下に入る</p> <p>轉進のため「スンゲイゴロク」出發</p> <p>「スンゲイゴロク」着 同地附近の警備並びに破壊橋梁の回修作業に従事</p> <p>「シンゴラ」出發</p> <p>從事</p> <p>「シンゴラ」に在りて飛行場大隊及び高射砲隊に協力、諸設備構築作業に従事</p> <p>轉進のため那今出發 「シンゴラ」着</p> <p>那今及び「バンドン」に在りて飛行場兵舎諸設備構築作業に従事</p> <p>泰國南部「バンドン」に敵前上陸</p>													

		至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
19		1818	1918				1817	1717
1	12	105	610	96	52	21	2	18
9	14	2720	51	2815	47	116	28	2627
								2911
<p>「メダン」飛行場格納庫構築作業に従事 「アロールスター」飛行場兵舎諸設備構築作業に従事 歩兵一五三連隊より補充人員一〇八名転入す 「ジャワ」島「スラバヤ」に在りて建築資材の揚陸並びに搭載作業に従事 「チモール」島「ラウテン」及び「アビス」 「デリー」各飛行場兵舎其他 諸設備構築作業に従事 泰国「チュンボン」市及び「カオファージ」に在りて野戦貨物廠倉庫並び に兵站宿舎諸設備構築作業に従事 泰国「チエンマイ」市より「ビルマ」国「トングー」に通ずる野戦自動車 道路構築及び橋梁架設作業に従事 「セレベス」島「ピンラン」及び「リンブン」各飛行場格納庫兵舎其他諸 設備構築作業に従事 奈良歩兵第一五三連隊より補充人員一一名転入す 第五飛行師団の指揮を脱し第三航空軍の隷下に入る</p>								

		至自	至自	至自	至自
	21	2017	2019	20	1918
	6	8	83	2	111
	1	15	1314	10	912
<p>歴代部隊長</p> <p>初代 大尉 西田 幸雄</p> <p>二代 大尉 白井 富哉</p>	<p>大竹港において復員</p> <p>停戦</p> <p>主力昭南島に在りて航空基地諸設備構築作業に従事</p> <p>に従事</p> <p>仏印西貢及び「ツララン」「ブノンベン」各飛行場兵舎諸設備構築作業に従事</p> <p>建築勤務第七五中隊編成要員として一五〇名転出す</p> <p>ガウ」各飛行場兵舎諸設備構築作業に従事</p> <p>北部「ボルネオ」島「アビ」及び「クダット」「サンダカン」「ケニン</p> <p>泰国「ナコンサワン」飛行場兵舎諸設備構築作業に従事</p>				

									昭	年 月 日	建築勤務才五二中队略歴 (勢才八二三五部隊)	
19	17	17	16	16	16	16	16	16	7			
1	2	2	8	8	8	8	8	8	7			
9	8	6	19	17	14	8	6	17	17			
<p>福井県 江中部六四部隊に於て編成完結</p> <p>岡特派参加のため鮮江出發</p> <p>宇品港出發</p> <p>関東州大連港上陸</p> <p>関東州界通過</p> <p>満洲国興安北省「ハイラル」着。第六車司令官の隷下に入り警備並に建築作業に従事</p> <p>「ハイラル」出發</p> <p>満洲国向島省春明村金蒼着。第七一師団長の指揮に入り国境警備並に建築作業に従事</p> <p>南方作戦参加のため向島省龍井出發</p>											略	歴
											摘	要

21	21	20	19	19	19	19	19	19	19		
6	6	9	7	4	2	2	2	1	1		
17	3	2	15	24	18	11	6	17	15		
名古屋港上陸。復員	「サルミ」港出発	に於て武装解除された後本軍収容所に入る	ニューギニアに於て終戦停戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点	「サルミ」到着。第二九師団長の隷下となり戦斗に参加	西部ニューギニア「サルミ」に転進	作業に従事	「ニューギニア」「ホーランジャール」上陸。第四航空軍司令官の隷下に入り建築	「ニューギニア」戦参加のためバラオ出発	「バラオ」港上陸	門司港出発（「マカツサ丸」）	朝鮮釜山に於て国釜連絡船使乗